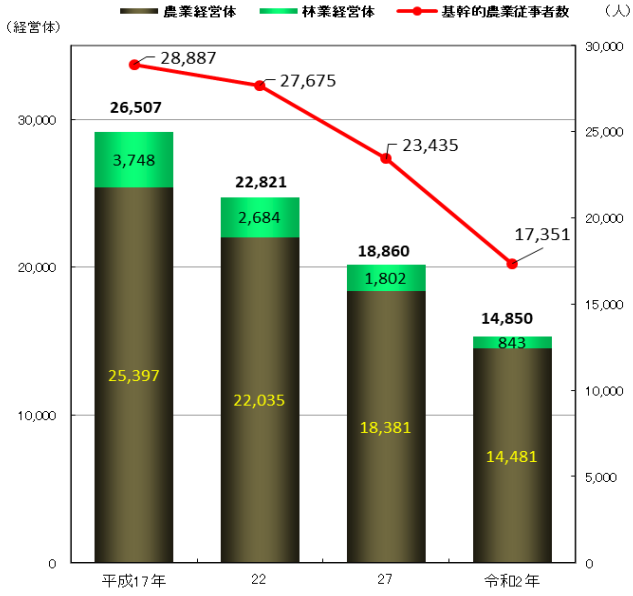
農林業センサスでみる鳥取県
～鳥取県の農林業事情～

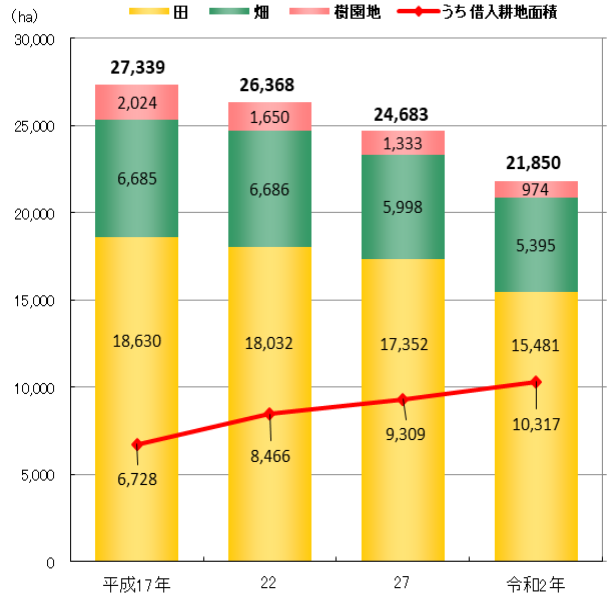
農林業センサスは全国の農林業の生産構造、就業構造を明らかにするとともに、農山村の実態を総合的に把握し、各種農林業施策に必要な資料の整備を目的に、5年ごとに行う調査です。

農林業経営体・基幹的農業従事者数の推移



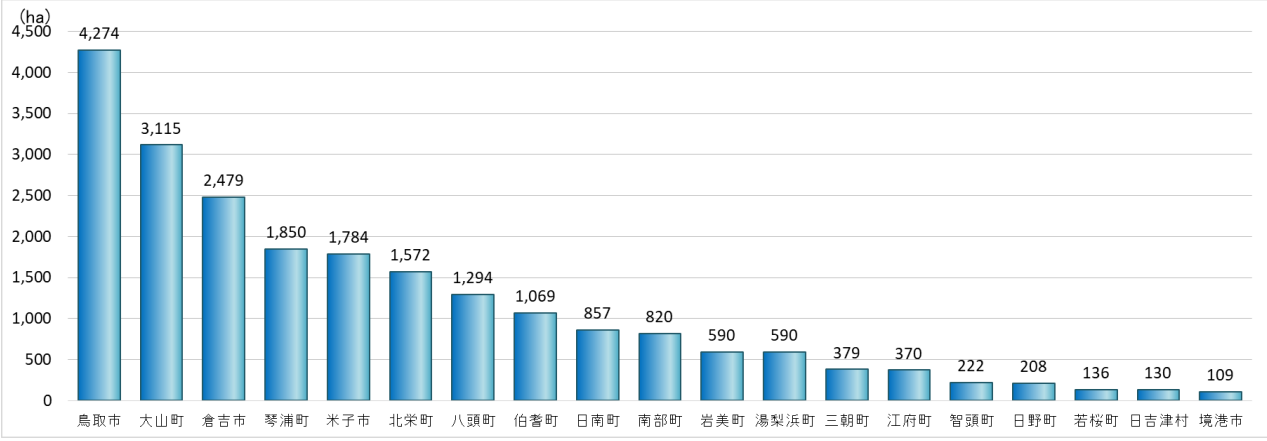
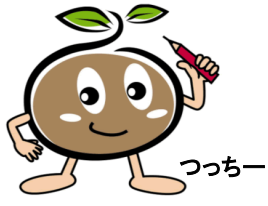
注：基幹的農業従事者とは、ふだん仕事として主に自営農業に従事している世帯員をいう。

経営耕地面積の状況の推移



県内の農林業経営体は、農業経営体、林業経営体ともに減少が続いています。
基幹的農業従事者についても、農林業経営体と同様、減少しています。
経営耕地面積の状況は、田・畑・樹園地それぞれが減少していますが、経営耕地面積の借入耕地面積については、増加しています。

市町村別経営耕地面積（令和2年）



経営耕地面積を市町村別でみると、鳥取市が4,274haと最も大きく、県全体の19.6%を占めています。次いで大山町（3,115ha、14.3%）、倉吉市（2,479ha、11.3%）となっています。
一方、最も小さいのは境港市（109ha、0.5%）で、次いで日吉津村（130ha、0.6%）、若桜町（136ha、0.6%）となっています。